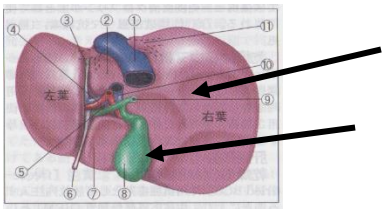
令和５年６月９日

京口門だより No. 116

今年は地震や豪雨など災害が多くなっています。そして梅雨入りが例年より早くきました。雨がすこし続き晴れると、朝晩はなんとなく寒さを感ずるのは私だけでしょうか。「今日もまた白き蝶来て梅雨寒し」（武田鶯塘）

今月は胆石症の話をしたいと思います。胆石症は肝臓の内側にある胆のうという胆汁を蓄えている袋の中に結石が出来てくる病気です。胆のうという袋は肝臓で作り出され胆汁が胆道を通って排出される途中にある袋です。胆のうにたまった胆汁は動物性脂肪などが十二指腸を通る時に排出され、脂肪分の消化・吸収を助けています。また胆汁は腸での食べ物の消化に不可欠なものです。この肝臓で作られた胆汁がスムーズに胆道を通り、胆のうに貯められていれば良いのですが、何かの原因によってこの胆汁の流れが妨げられますと、流れが澱んだところには必ず何か余分なものが溜まってきます。この溜まったものが長期にわたると結石となってきます。ですから胆石は胆汁が固まってできるものですが、最近はコレステロールが結石となって出来てくることが多いようです。



胆石ができると無症状のこともありますが、脂肪分の多い食餌、卵の過食、肉体的過労などをきっかけにはげしい腹痛をきたします(疝痛)。鎮痛剤でもなかなか治まらない場合もあり、外科的に胆のう剔出術が行われることもあります。

漢方では疝痛をなおす痛み止めとして芍薬甘草湯、大黄附子湯などが用いられます。また大柴胡湯という漢方薬は胆石の痛みを抑えるとともに、胆石の排泄作用もあります。また鍼治療が痛みを緩和する作用をもっています。胆石症だと言って直ぐ外科的手術の前に漢方治療が有効で、そのまま治まってしまうケースもあります。　　６月 17 日(土)は学会参加で休診いたします。